マサバ
太平洋系群

主な漁業と漁期

未成魚・成魚　まき網：周年
棒受網：1月～6月
たもすくい網：1月～6月

生　態

マサバは日本周辺で漁獲される代表的な浮魚で、資源は2013年以降回復傾向にあったものの、近年は減少傾向を示しています。

●分布・回遊

静岡県海域に分布し、太平洋系群に属しています。

太平洋系群の0歳魚及び1歳魚の一部は北西太平洋に広く分布しています。1歳魚の多くや2歳魚以上は初夏に北上し、秋季まで千島列島東方沖から東北の沿岸にかけて索餌回遊を行います。その後、冬季から春季にかけて南下して産卵します。しかし、時折、「根付」と呼ばれる、大規模な回遊を行わないマサバも見受けられます。

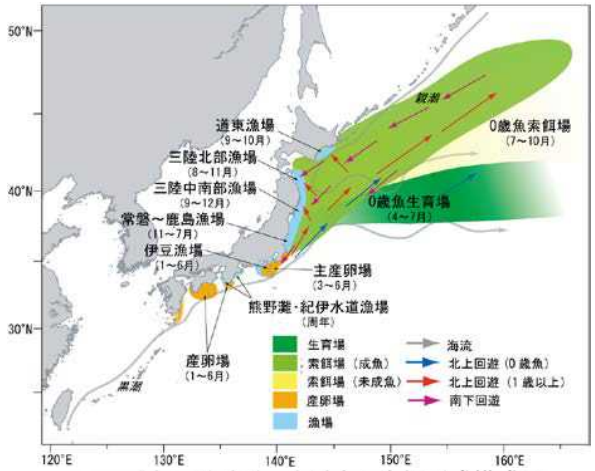
●産卵期・産卵場

産卵期：1～6月で、最盛期は3～4月です。
産卵場：主要な産卵場は伊豆諸島周辺海域です。

●成長・成熟

寿命は8歳程度です。1歳で尾叉長20cm台後半、体重300g程度まで成長し、4歳で30cm台後半、体重700g程度に成長します。しかし、2013年級群以降は成長に遅れが見られ、尾叉長、体重ともに過去平均値と比較してかなり低い値を示しています。

成長の鈍化に伴い、成熟にも遅れが見られ、3歳で約30%、4歳以上で約100%が成熟します。



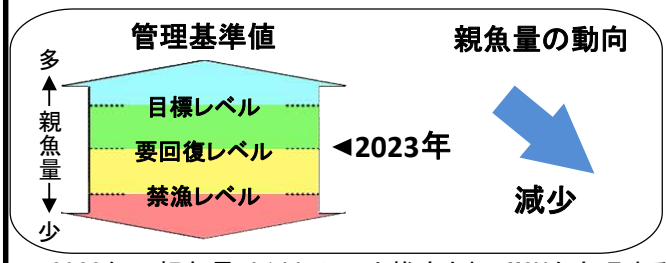
マサバ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図

（国研）水産研究・教育機構資料

漁　業　・　資　源　動　向

【資源】

マサバ太平洋系群は、最大持続生産量（長期的に漁獲量が最大となる資源状態を維持することで得られる漁獲量。以下、MSY。）に基づいた資源管理を行っています。



1　2023年の親魚量は144千トンと推定され、MSYを実現する目標レベル（626千トン）を下回っています。また、漁獲圧はMSYを実現する水準を下回っています。

2　親魚量の動向は近年5年間の推移から減少傾向と判断されます。

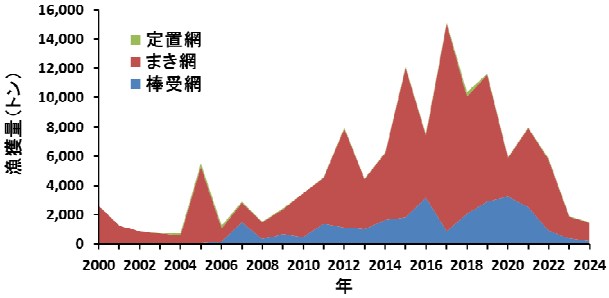
《国の資源評価へのリンクはこちら》
要約
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/01/simple_2024_05.pdf
詳細
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_05.pdf

【漁業】

1　静岡県では、マサバが県沿岸及び伊豆諸島に来遊する冬から春にまき網とたもすくい網で漁獲されます。

2　現在、伊豆諸島周辺海域で操業する静岡県の棒受網・たもすくい漁船は、小川及び安良里に各1隻、伊東に2隻あります。

3　県内の水揚量は近年減少傾向にあります。
①成長・成熟の遅れ、②黒潮続流の北偏による沿岸域の高水温化により、南下回遊の遅れや回遊経路が変化し、主な操業海域である伊豆諸島周辺海域や県内沿岸への来遊量が少ないことが理由として考えられます。



静岡県のマサバ漁業種類別水揚量の推移

※県内主要4港（小川、沼津、静浦、伊東）合計

担当者の一言：鮮度が落ちやすい魚ですが、鮮度の良いマサバは各地でブランド魚として注目されています。

問合先	静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科　054-627-1817